

授業科目名	社会調査演習 1	担当教員	西崎 伸子
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 1 クォーター		
講義内容	この授業では、文化人類学や社会学で用いられるフィールドワークに関する基本的な理論と方法を修得することを目的とする。問題設定、調査の計画と準備、実施(資料・データ収集)、分析、調査倫理などの調査の一連の流れを学び、主として質的調査(参与観察, インタビュー)と文献調査の基本的な技法の修得を目指す。		
到達目標	社会調査手法に関する基礎的な考え方・知識を理解することができる 調査計画を立てることができる		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：授業の目的・進め方の確認</li> <li>2. フィールドワークの方法：質的調査と量的調査</li> <li>3. 質的調査の3つの方法</li> <li>4. フィールドワークをおこなうための手順（インタビュー）</li> <li>5. フィールドワークをおこなうための手順（観察）</li> <li>6. フィールドワークをおこなうための手順（生活史）</li> <li>7. 調査の倫理</li> <li>8. テーマの見つけ方（1）</li> <li>9. テーマの見つけ方（2）</li> <li>10. 調査計画を立てる（1）</li> <li>11. 調査計画を立てる（2）</li> <li>12. 調査計画に関する面談（インタビュー）</li> </ol>		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業のテーマに関連する書籍などの情報を収集し、目を通しておくこと</li> <li>・各授業の実施後、必要に応じて課題を与えるのでとりくむこと</li> </ul>		
テキスト	テキストは用いず、資料を配布（配信）する。		
参考文献	<p>好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス』光文社新書, 2006年</p> <p>岸政彦、石岡丈昇、丸山里美『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣, 2016年</p> <p>清水展・小國和子編著『職場・学校で活かす現場グラフィー : ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』明石書店, 2021年</p>		
成績評価の基準	<p>課題の提出（5回程度）で評価する。</p> <p>★授業に出席していることが成績評価の前提条件になる。3回以上欠席した場合は自動的にD評価となる。</p>		

履修上の注意 履修要件	履修学生は、社会学、社会調査演習Ⅱをあわせて履修することが望ましい
実践的教育	該当しない。
備考欄	<p>定員を超過した場合は抽選する。</p> <p>2021年～2024年度入学生：「社会調査演習」2単位 職業専門科目  「社会調査演習1」「社会調査演習2」（基礎科目）を同時に履修して2単位。  1，2を個別に履修することは認められません。</p>